

4-3 交通安全

自動車が一家に1台の時代から一家に2台以上の時代となりました。道路整備も進み、行きたい場所へ行きたい時に行けるようになり、みなさんの生活も50年前に比べて数段便利になりました。市内でも交通量が増加し、通勤ラッシュも珍しくなくなりました。便利になった反面、私たちの生活は危険と背中合わせになり、交通弱者の保護が叫ばれています。

交通安全の啓発を充実させるとともに、歩道や交差点の整備、街路灯の整備を進め、事故の防止に努めます。

4-4 水道事業

毎日の生活の中で欠かせない水。山紫水明に恵まれたいなべ市では、市民のみなさまに安全でおいしい水の提供に努めています。水道施設の計画的な整備や維持管理に努め徹底した水質の管理、渇水期でも不安のない水源の確保に努めます。

しかしながら、水道会計の支出は収入を大きく上回っており、平成17年度も、不足分として一般会計から4億5千万円（前年度比3千万円増）の補てんを見込み、依然厳しい状況にあります。

水道事業の合理化、効率的な維持管理など経費節減に努めてまいりますが、将来の水道収入の安定化を図るため、料金の見直しは避けられないものと思われれます。

4-5 個人情報保護

近年、新たな社会問題となっている個人情報の流出事件。官民を問わず、個人情報の管理に対する認識を改め、事故防止に努めなければなりません。

いなべ市では平成16年9月議会において、いなべ市個人情報保護条例を制定し平成17年4月から施行します。同時にいなべ市セキュリティポリシーを打ち出し、個人情報の危機管理体制を確立します。

4-6 乗って残そう北勢線

三岐鉄道北勢線が発足して2年が経過します。当初10年間の予定で始められた北勢線リニューアル計画は、国土交通省の幹線鉄道等活性化事業(高速化)の対象に認定されたことにより、5年間の事業としても、集中的に整備が進められています。それにより劣悪であった道床や軌道も徐々に整備され、車両の揺れが少なくなり、安定感がでてきたと好評をい

ただいています。また、平成16年4月に開業した新大泉駅の利用者は、駅前駐車場の整備やダイヤ改正の成果から旧長宮駅と旧大泉駅の2駅合わせた前年度の乗車数に比べ150%と大幅に増加しています。

平成17年3月には、星川駅、東員駅が駅前駐車場を付設して開業され、平成17年度からは放置自転車を有効活用し、誰もが気軽に利用できる自転車を段階的に配置する（コミュニティサイクル事業）など、快適で利便性が高い北勢線をめざして積極的に取り組んでまいります。

しかし、平成16年度の北勢線全体の輸送人員は減少しており、三岐鉄道本線との料金の統一化などが大きく影響したものと思われます。北勢線の再生は行政、三岐鉄道など一部の人たちだけで実現できるものではなく、一人でも多くの方々に通勤通学の手段として鉄道を利用していただくことが基本です。みなさんの乗車を心より願います。



三岐鉄道 北勢線 楚原駅

V 活力に満ち、活気あふれるまちづくり

5-1 地域の活性化

地域の活性化こそが市全体の活性化の源です。現在、市内には118の自治会があり伝統行事や清掃活動などを自主的に実施し、コミュニティ活動の中心的な役割を担っていただいています。今後とも自治会への支援を強化し、活気のある地域づくりを進めます。

その自治会からの要望の多くは防犯灯、消防施設、生活道路や側溝などの身近な公共施設の整備です。しかし、要望は膨大な量になり、すべての要望に応えるには財政的にも、測量設計などの事務の量からも不可能です。事業の緊急性や地権者も含めた地元の総意としてまとまった箇所から優先的に整備を進めます。